



# 上手な野菜のダイコン育て方

## 1 栽培時期と品種

○ 種まき ■ 収穫

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	品種
夏獲り			○	○	■	■	■	■	■	■			耐病総太り
秋冬獲り	■	■							○	○		■	耐病総太り大蔵



## 2 栽培上の注意点

- ① 耕土が深く膨軟で、水はけ・水持ちのよい肥えた土が適する。
- ② 排水の悪い圃場は高畝にする。
- ③ 土壌の耕土が浅すぎたり、石などが当たると股根になりやすい。

## 3 畝づくり・本田肥料

**【元肥】** 種まき10日前くらいに1坪(3.3㎡)当たり、牛フン堆肥7kg、苦土セルカ500g、あさひ300gを全面に施し耕運後、畝幅約120cm畝高20~30cmに整地する。

**【追肥】** 本葉3~4枚時、あさひ70gを条間に散布する。

## 4 種まき・間引き



作付けする畝に、くぼみを作り3粒ずつ2条まきにし、1~2cm土をかぶせる。

本葉3枚程度になれば、双葉や本葉の形がそろって病害虫の被害の受けていないものを残し1本にする。

## 5 土寄せ

間引きの時に指で胚軸の半分まで土寄せを行い倒伏や曲りを防ぐ。

## 6 害虫防除

ダイコンにはコナガ・アオムシ・アブラムシが発生しやすいので、発生があればトレボン乳剤1mlを水1ℓに溶かし1000倍溶液を葉の表裏に散布する。(卵がついた時に散布すると、薬剤効果が高まります)

※トレボン乳剤の総使用回数3回、収穫21日前まで使用ができます。

## 7 収穫

上方に向かって勢いよく伸びていて葉が開き気味になり、外葉が垂れるようになれば収穫適期です。

※収穫が遅れると、根にす入り(空洞化)現象が生じ食味が悪くなりやすいので収穫のタイミングは重要である。

## 参考

- 発芽リスクがあるが本来3粒まきにする所を1粒まきにする必要がない。
- 高温期にダイコンの種子をまくとアブラムシの飛来により、ウイルスに侵されやすいので、ネット・反射性マルチ等を利用することで被害を軽減することができる。
- 白菜・ブロッコリー・小松菜・キャベツ・カブラ等の作付後にダイコンを作付すると、キスジノミハムシが発生し、はだあれするおそれがある。  
※キスジノミハムシ防除・・・フォース粒剤を1aに600~900g、播種時に土壌混和をすると軽減できる。

